



ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動 1.7 学校 16 校で「環境保全クラブ」導入と植林などの環境保全活動

序論

地球環境基金(JFGE)及び Global Bridge Network (GBN)の支援を受け、SORAK は対象校 16 校の学校へ「環境保全クラブ」を導入した。各のクラブは学校の生徒たち 20 名で構成され、自分たちの校内における環境濫用・破壊の監視、報告、及び植樹を実施する責任が与えられた。

期間：2018 年 6 月～9 月

環境保全クラブが導入された学校一覧

1. カテガ小学校 (Katega p/s)
2. センクル小学校 (Ssenkulu p/s)
3. キウワ小学校 (Kiwuwa p/s)
4. カブニョニ小学校 (Kabunyonyi p/s)
5. ブガンニ小学校 (Buganyi p/s)
6. キャカンシンビ小学校 (Kyakansimbi p/s)
7. 聖キジトキガンバ小学校 (St. kizitoKigamba)
8. エベネザー少年小学校 (Ebenezer Juvenile p/s)
9. カフンデージ小学校 (Kafundeezi p/s)
10. カボワ小学校 (Kabowa P/s)
11. ムグングル小学校 (Mungungulu p/s)
12. カブブ小学校 (Kabubu p/s)
13. カッタンボゴ小学校 (Kattambogo p/s)
14. ブワタ小学校 (Buwata p/s)
15. ルワウナ小学校 (Lwawuna p/s)
16. プレシャスチャイルドラーニングセンター (Precious Child Learning Centre)

環境保全クラブの主な役割と責任

- ▶ 学校をベースにしたクラブの主な役割は、環境教育が発展するように適切な機会を提供し、クラブが生徒たちの指導チームとなって校内の環境問題に対する責任を果たす。クラブは環境に影響を及ぼす問題であればどんなものでも、他の生徒を率いて取り組む役割りを担っている。
- ▶ 各クラブは学校の管理者たちと協力し、環境保全方法の向上を図り、学校の他の生徒たちに環境問題について自発的に伝えていくようにする。また廃棄物管理、土壌保全、植樹活動を実行する責任も課されている。
- ▶ 環境保全クラブは校内環境に対する意識改革、提言活動、保全活動、維持管理を生み出し、学校に団結力をもたらす。

活動内容

活動を通し SORAK は以下のことを達成した。

- 学校をベースとした環境保全クラブを結成した。SORAK は自然保護の必要性を訴える啓発活動、湿地浸食に対する運動、植樹の実践、廃棄物管理などの環境管理活動において、地域と協働していくようクラブを動員した
- SORAK は木の苗を調達し、子ども達の校内での植樹活動を支援した。
- SORAK は草木の生えていない校内の敷地に植樹できるだけの苗の不足への解決策とし、苗床を作るプロジェクトを立ち上げるようにクラブを指導した。
- SORAK は森林破壊など環境における脅威への取り組みとし、活動計画及び年間で達成可能な目標を設定する必要性をクラブに訴えた。
- SORAK は新しい農法や土壌侵食への対策法、飼育場の管理法など地域住民を教育していく役割をクラブに課した。
- SORAK は地域社会での環境教育促進のため社会的繋がり的重要性を提唱している NEMA Uganda (2006) (ウガンダ国家環境管理局) をクラブに紹介した。



カフンデージ小学校にて SORAK のプロジェクトマネージャーが
ナビンゴラ町長とともに植樹活動の始動に立ち会ったときの様子。



カフンデージ環境保全クラブの生徒（制服姿）が学校での植樹活動に参加している。



パートナーである GBN、そして SORAK の代表（後方）が
カフンデージ小学校の生徒が見守る中、植樹活動を開始した時の様子。



左：子どもたちが SORAK より届けられた木の苗木を紹介している。



右は教師が SORAK より届けられた苗木を検査している様子。

クラブ活動の成果

初期に結成されたクラブが実施した植樹活動を通し、環境に確実に良い効果を出しており、また廃棄物の適切かつ衛生的な管理について他の生徒たちの意識も高まった。

クラブが直面した主な課題

- モチベーションや必要な設備の不足。
- 環境問題を啓発していく上での情報不足や学校からの支援不足。
- クラブ活動として不適切な計画が見受けられた。
- 部員の一人であるナムウエンゲさんは、学校で掲げられた他の目標（課題活動）にクラブ活動が阻まれてしまうことや、クラブに対して適切な情報伝達がなされていない点を指摘した。この問題は生徒たちが地域の環境問題に取り組む活動を妨げてしまうので、クラブ活動を革新的に改善していくためには、そのような課題を明確にすることが絶対に必要であると彼女は言う。

提案

今後も環境保護に子どもたちが意欲と活力をもって取り組めるよう、感謝を表わす賞を与える等、モチベーションを高める機会を提供することを推奨する。

結論

学校をベースとした環境保全クラブを無事導入することができた。クラブは環境を守っていくにあたり SORAK や学校の管理委員会と手を取り合い活動していくことを約束した。